被災体験

6月3日の大火砕流

噴火当時は農業を営んでいた。6月3日、畑作業をしている最中に大火砕流が発生し、家のことは妻に任せ、自分は消防詰所に向かいポンプ車を出動させた。

その日から生活は一変。最初の消防団活動は大野木場住民を全員避難させることだった。2～3人一組で家を一軒一軒回って避難誘導をした。その際、島原市の上木場でやけどをされた方1人を救助して搬送した。その日から自治会公民館で団員20人での避難生活が始まり、2カ月間くらいは消防団活動に専念せざるを得なかった。

9月15日

小さい頃から慣れ親しんだ大野木場小学校が焼け、消防団詰所も焼けてしまった。団員11人の自宅も燃えてしまった。消防団員でありながらバケツ一杯の水もかけることができなかったことは本当に悲しかった。

団員の半分以上の自宅が被害にあい、分団活動の存続の危機があった。そんな中、全国から励ましの手紙や救援物資などが寄せられ、団員の前でいただいた手紙を読んだ。団員の一人が今消防団がなくなったら地域が再建したときに消防団を復活させるのは難しいと言った。その言葉で、団員みんなの気持ちが一つになり存続することができた。

おお やま ひで たか
大山 秀孝さん

噴火当時、深江町消防団第8分団分団長(大野木場地区)。火砕流によって自宅を焼失しながらも消防団活動を継続。

焼失した当時の第8分団詰所

どんな30年だったか

とにかく災害当時、自分は消防団活動に専念し、家族のことを妻にまかせっきりでいたので、妻には大変感謝している。避難生活が終わって、再び大野木場地区に戻ってきて生活しているが、いまだに山を見ない日はない。大変だったが、元々まとまっていた地域が、共に噴火災害で苦労したことでさらに絆が深まった。

噴火を知らない子どもたちへ

自然災害は恐ろしい。万が一何か災害が発生した場合、学校にいるときは先生の言うことを素直に聞き、家庭では親の指示で動くことが大事。普段から家族とよく会話をしてお互いの情報を常に共有してほしい。そういったことがいざというときに役立ってくるはず。

噴火のはじまり

普通に集団登校をしていて、誰かが煙に気づいたが山火事かなという感じだった。それから学校に着いて噴火だということを知らされた。

自宅が被災

噴煙が上がり始めたとき、こんなことになるとは想像していなかった。当時は中学生だったので、ひたすら周りの大人の指示に従っていた。6月3日の大火砕流の前に梅雨時期で土石流発生の危険があるため、夜に突然避難するように指示があって何も持たずに避難したのを覚えている。6月3日の大火砕流で避難したあと、噴火が一旦落ち着いて自宅に戻ることができた。その時高校生になっていたが、ある日雨がものすごくひどく、この降り方は家が被害を受けるかもしれないと思い、先生に帰宅させてくれと頼んだ。でも先生は危ないから駄目だと言って帰してくれなかった。その日に自宅が土石流被害にあった。もしあの時、駄目だと言ってくれなかったら自分は今いないかもしれない。止めてくれた先生に大変感謝している。

30年が経過

あっという間の30年だったが、噴火からの3年間とここ最近の10年と比べたら、その3年間はものすごく貴重な経験だった。避難生活が始まって仮設住宅への入居など大変な生活だったが、全国の方たちから多くの励ましの手紙や救援物資をいただいたことは忘れない。

噴火を知らない子どもたちへ

今、普通に生活できていることをありがたく思ってほしい。いつ地震や溶岩ドーム崩落などが発生するか分からない。災害が起こると急に生活が一変してしまう。いざというときには大人の意見や指示にしたがって命を守る行動をとってほしい。

埋没した上田さんの自宅

うえ だ たか ふみ
上田 崇文さん

噴火当時、深江中学生。
土石流により自宅が埋没し、その家屋は現在土石流被災家屋保存公園内で保存展示されている。

噴火災害の脅威を伝え続けています

大野木場監視所
(愛称:大野木場砂防みらい館)

ば深江町戊2100-1
●開館時間…午前9時～午後4時30分
●休館日…年末年始(12月29日～1月3日)
●入館料…無料　問☎72-2499

旧大野木場小学校被災校舎に隣接している施設。溶岩ドームを監視し、世界初の無人化施工技術を用いた操作室を備え、噴火災害や復興についてのパネル展示や映像を見ることができます。また、この建物自体が溶岩ドーム崩落などの非常時の避難場所にもなり、約1日の避難に備えて酸素、通信施設、監視カメラのモニターが完備されています。

深江埋蔵文化財・噴火災害資料館

ば深江町戊2102
●開館時間…午前9時～午後5時(入館午後4時30分まで)
●休館日…火曜日
●入館料…一般:200円/高校生:150円/中学生以下:無料
※団体割引あり　問☎72-2512

大野木場監視所の向かい側にある施設で、権現脇遺跡をはじめとした深江町内の遺跡から出土した遺物(土器・石器など)の展示とともに、噴火災害に関する写真や約4千年前に眉山が噴火した際の爆風で倒れた倒木痕に火山灰が堆積した土層の剥ぎ取り標本などを展示しています。

旧大野木場小学校被災校舎

ば深江町戊2100-1
●外からの見学自由　問☎72-2499(大野木場監視所)

平成3年9月15日午後6時42分および54分に発生した規模の大きな火砕流に伴う高温の熱風により焼失した校舎。現在も30年前とほとんど変わらぬ姿で保存されており、平成噴火の災害を知らない世代や海外の人に、その脅威を伝え続けています。校舎内への立ち入りは危険のため禁止されています。

写真は平成23年に保存管理のため立ち入った際に撮影したもので、普段では見ることができない校舎2階の被災状況が分かります。一部の教室では被害が比較的少なく、机などが燃え残った教室もあります。

かどわき歴史災害記念館

ば深江町戊3243(大野木場小学校敷地内)
●開館時間…午前9時～午後4時　●入館料…無料
●休館日…土日祝日、年末年始など　問☎73-6713

現在の大野木場小学校の敷地内にある施設。噴火災害に関する写真、火砕流の熱風で変形した時計や拡声器などが展示されています。小学校で管理している施設のため、休校日以外に見学することができます。